

資料3

令和5年(2023年)9月26日
 高齢者計画・介護保険事業
 計画策定部会

指標番号		指標案	備考
2-02	2	要介護1以上の方で医療を必要とする人の在宅生活継続率	
2-02	2	在宅死亡率	
2-02	3	1 供給量が不足している介護サービスのうち、医療系サービス(訪問看護、訪問リハ、通所リハ、短期入所療養介護)を回答したケアマネの割合	
2-02	3	1 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由について、「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」と回答したケアマネの割合(17.7%)	
2-02	3	2 人生の最終段階における介護や医療について、具体的に準備したり、継続的に周りの人と話し合ったりしている人の割合	
2-02	3	2 10期計画から、ケアマネへの調査も検討する	
2-02	3	2 「終活」という言葉の認知度など(10期に向けた調査での追加を検討)	
2-02	3	2 「救急医療情報シートに必要事項を記入し、わかりやすい場所に掲示している」と回答した要介護認定者の割合	
2-02	3	3 「地域の高齢者のくらしをともに支えるパートナーとして、医療職と連携や意識共有ができています」と答えるケアマネの割合	
2-02	3	3 「地域の高齢者のくらしをともに支えるパートナーとして、医療職と連携や意識共有ができています」と答える包括職員の割合	
2-02	3	4 全ての場面(日常的・入退院時・急変時・看取り)で、医療側と情報・意識共有がスムーズに行われていると感じるケアマネの割合	
2-02	4	1 【指標なし】(5-9の検討を経て9期中に設定)	
2-02	4	2 【指標なし】(5-9の検討を経て9期中に設定)	
2-02	4	3 日常的に医療側(主治医等)と情報・意識共有がスムーズに行われていると感じるケアマネの割合	
2-02	4	4 入退院時に医療側(主治医等)と情報・意識共有がスムーズに行われていると感じるケアマネの割合	
2-02	4	5 急変時に医療側(主治医等)と情報・意識共有がスムーズに行われていると感じるケアマネの割合	
2-02	4	6 看取りに向けて医療側(主治医等)と情報・意識共有がスムーズに行われていると感じるケアマネの割合	
2-02	4	6 入院時情報連携加算取得率	
2-02	4	6 退院退所加算の取得率	

指標番号			指標案	備考
2-02	5	1	在宅医療全夜間対応事業の取組状況	
2-02	5	2	在宅療養患者搬送事業の取組状況	
2-02	5	3	医療系サービス(訪問看護、訪問リハ、通所リハ、短期入所療養介護)のサービス利用量	
2-02	5	4	在宅医療相談窓口事業の取組状況	
2-02	5	5	在宅医療・介護連携にかかる多職種による研修会の開催回数、参加者数	
2-02	5	6	【検討中】	
2-02	5	7	【検討中】	
2-02	5	8	9期中に医療職向け意識調査やケアマネヒアリング等を経て検討を実施	
2-02	5	9	まごころネット(在宅医療支援システム)の登録事業所数	
2-02	5	9	まごころネットの利用頻度	
2-02	5	10	9期中に検討を実施し、対応の要否や時期を判断	
2-02	5	11	【指標なし】(5-9の検討を経て9期中に設定)	
2-02	5	12	【指標なし】(5-9の検討を経て9期中に設定)	
2-03	2		高齢者における現在の住宅に対する満足度	
2-03	2		全体として「住みやすい」と感じている高齢者の割合	
2-03	2		「今後の住まいについて不安を感じていない」と回答した高齢者の割合	
2-03	3	1	(ハード面の整備については2-01と連動して今後検討)	
2-03	3	1	現在の生活の維持が困難な理由として住宅のバリアフリー状況を挙げた方の割合など(10期に向けた次回調査で検討)	
2-03	3	2	将来要介護状態などになったときに備えて、住み替えや改修、ご自宅の管理などについて考えて準備している高齢者の割合	
2-03	3	3	民間賃貸住宅を必要とする人のうち、民間賃貸住宅を確保するのに苦労した(している)ことがある高齢者の割合	
2-03	3	3	【指標なし】	関連計画としてロジックモデル上に位置付けるが、高齢者計画で進行管理するには適さないため指標なしとする
2-03	4	1	今後の住まいに不安を感じている理由として「バリアフリー性能が十分でない」を挙げた方の割合	
2-03	4	1	住宅改修受給者のうち、1年以内に在宅から施設・病院に移った人の割合	本指標は在宅で暮らし続けるために住宅改修が役立ったかを確認するものです。
2-03	4	2	【検討中】	

指標番号			指標案	備考
2-03	4	3	【指標なし】(3-2と共通)	論理構造をわかりやすくするためロジックモデル上のアウトカムは設定したが、測定可能な指標が想定できないため指標は上位アウトカムと共通とする。
2-03	4	4	【指標なし】(3-2と共通)	論理構造をわかりやすくするためロジックモデル上のアウトカムは設定したが、測定可能な指標が想定できないため指標は上位アウトカムと共通とする。
2-03	4	5	【指標なし】(5-8の検討を経て9期中に設定)	
2-03	4	5	居住支援協議会等の住宅関係者が地域ケア会議に参加した回数	
2-03	4	6	【検討中】	
2-03	5	1	バリアフリー化の重要性や手法に関する情報発信に向けた取組状況	
2-03	5	2	市営住宅のバリアフリー化されている住戸数	
2-03	5	3	高齢者自立支援住宅改修給付に向けた取組状況	
2-03	5	4	住宅改修給付に向けた取組状況	
2-03	5	5	実地検査件数	
2-03	5	6	【指標なし】(5-8の検討を経て9期中に設定)	
2-03	5	7	住宅政策課窓口の入居相談件数	
2-03	5	8	R6年度に関係者の検討会を実施	
2-03	5	8	政策連携した取組状況	
2-03	5	8	包括的な地域福祉ネットワーク会議(重層)での情報共有	
2-03	5	9	居住支援協議会の入居相談件数 (住宅相談会の相談件数、居住支援協力店への案内件数)	
2-03	5	10	セーフティネット住宅 登録戸数	
2-03	5	11	家賃補助対象住宅 登録戸数	
2-03	5	12	賃貸住宅の負担軽減の支援策の周知の取組状況	
2-04	2		災害に強いまちと感じている市民の割合	
2-04	2		感染症に備えられている市民の割合	
2-04	3	1	災害に備えている市民の割合	

指標番号			指標案	備考
2-04	3	2	災害対策の計画・体制が整っていると感じる事業所の割合	
2-04	3	3	【検討中】	
2-04	3	4	感染症対策の計画・体制が整っていると感じる事業所の割合	
2-04	4	1	複数の手法で防災情報を入手できる市民の割合	
2-04	4	2	【検討中】個別避難計画の作成件数？	本市では、避難行動要支援者のうちハザードエリア居住者を優先して避難計画を作成していく想定。 ハザードエリア居住者の総数が算定できればそれを分母とした割合も指標とできそうだが、転居や死亡などで常に流動するため測定方法の検討が必要。
2-04	4	3	【検討中】	
2-04	4	4	(地域医療計画に合わせて設定)	
2-04	4	5	【検討中】	
2-04	4	6	感染症対策に必要な体制・設備が整備されていると感じる事業所の割合	
2-04	5	1	市民の的確な防災行動に繋がる情報提供の充実に向けた取組状況	
2-04	5	2	避難行動要支援者名簿及び個別避難計画の作成に向けた取組状況	
2-04	5	3	高齢者世帯実態調査の回答率	
2-04	5	4	福祉避難所の整備に向けた取組状況	
2-04	5	5	市の関係部局の連携に向けた取組状況	
2-04	5	6	市と介護事業所等の連携に向けた取組状況	
2-04	5	7	業務継続計画(BCP)の点検・改定支援に向けた取組状況	
2-04	5	8	介護事業所等での災害対策に向けた取組状況	
2-04	5	9	市や都、保健所、協力医療機関等の連携に向けた取組状況	
2-04	5	10	市と介護事業所等の連携に向けた取組状況	
2-04	5	11	介護事業所等での感染症対策に向けた取組状況	
2-05	2		虐待や財産の詐取などから高齢者が守られていると感じる人の割合	
2-05	2		虐待や財産の詐取などから高齢者が守られていると感じる包括職員の割合	
2-05	2		虐待や財産の詐取などから高齢者が守られていると感じるケアマネの割合	
2-05	3	1	介護を受けている高齢者への虐待が疑われる状況を発見した場合に、相談窓口や通報先に連絡する人の割合	
2-05	3	2	【検討中】	
2-05	3	3	【検討中】	

指標番号			指標案	備考
2-05	3	4	次回ケアマネ調査で質問追加 例:「成年後見制度などにより、意思決定や意思表示が難しい方の財産や安心できる暮らしが守られている」と感じるケアマネの割合	
2-05	4	1	【指標なし】(5-1で検討し、9期中に設定)	
2-05	4	2	【検討中】	
2-05	4	3	養護者等による虐待の情報に対して、市が素早く適切な判断を行っていると思うケアマネ・包括職員の割合	
2-05	4	3	相談・通報の受理から虐待判断までの期間 ※モニタリング指標	時間をかけて見守りながら判断していくことが適切なケースもあり、目標を設定しないモニタリング指標とすることを検討。
2-05	4	3	【指標なし】(5-1の検討において、素早く適切な対応をするためのボトルネックを特定し、それに合わせて取り組みと指標・目標を設定する。)	
2-05	4	4	養護者による虐待の再発率?	
2-05	4	5	【検討中】	
2-05	4	6	施設等による虐待の情報に対して、市が素早く適切な対応を行っていると思うケアマネ・包括職員の割合	
2-05	4	6	相談・通報の受理から虐待判断までの期間 ※モニタリング指標	時間をかけて見守りながら判断していくことが適切なケースもあり、目標を設定しないモニタリング指標とすることを検討。
2-05	4	7	地域との交流事業や教室開催、ボランティア受け入れなどを行っている事業所の割合	
2-05	4	8	成年後見制度について、必要な方に適切な支援が行われていると感じているケアマネの割合	ロジックモデル上で4-8と4-9を統合すべきか、地域福祉計画での扱いも参考に検討中
2-05	4	8	権利擁護事業について、必要な方に適切な支援が行われていると感じているケアマネの割合	ロジックモデル上で4-8と4-9を統合すべきか、地域福祉計画での扱いも参考に検討中
2-05	4	8	75歳以上人口1000人あたりの成年後見制度等(地域福祉権利擁護事業、財産保全・管理サービス)の利用者数	ロジックモデル上で4-8と4-9を統合すべきか、地域福祉計画での扱いも参考に検討中
2-05	4	8	成年後見サポートセンターの認知度	ロジックモデル上で4-8と4-9を統合すべきか、地域福祉計画での扱いも参考に検討中
2-05	4	8	地域福祉権利擁護事業の認知度	ロジックモデル上で4-8と4-9を統合すべきか、地域福祉計画での扱いも参考に検討中
2-05	4	9	地域福祉サービス総合支援事業の認知度	ロジックモデル上で4-8と4-9を統合すべきか、地域福祉計画での扱いも参考に検討中
2-05	4	10	将来認知症などになったときの財産管理や意思決定について備えている高齢者の割合	
2-05	5	1	データに基づくPDCAサイクルの視点を踏まえた虐待防止計画の見直し、改訂	
2-05	5	2	高齢者虐待防止研修開催回数・参加機関数	
2-05	5	3	市民向けの周知の検討及び実施数	

指標番号			指標案	備考
2-05	5	4	対応件数	
2-05	5	5	措置件数	
2-05	5	6	高齢者緊急一時保護事業委託事業者数の増、保護件数	
2-05	5	7	【指標なし】(虐待即応チームの設置なども視野に5-1の計画で設定)	
2-05	5	8	【指標なし】(5-1の計画で設定)	
2-05	5	9	あんしん相談センターにおける高齢者虐待に関する相談実施数	
2-05	5	10	虐待通報場所の周知、公益通報者保護法の周知	
2-05	5	11	【指標なし】(5-1の計画で設定)	
2-05	5	12	事業所への指導件数、通報の対応件数	
2-05	5	13	【指標なし】(9期中に事業者ヒアリングや現状分析を実施)	
2-05	5	14	【検討中】(地域福祉計画と連動した指標とすることを想定)	
2-05	5	15	【検討中】(地域福祉計画と連動した指標とすることを想定)	
2-05	5	16	意思決定支援ガイドラインの関係者向け普及に向けた取り組み状況	
2-05	5	17	認知症への備えに関する普及啓発の実施状況	
2-06	2		在宅介護に対して不安を感じていない人の割合	
2-06	2		今後も働きながら介護を続けられる人の割合	
2-06	2		毎日の暮らしの中で「家族の介護のこと」になやみや不安を抱えている人の割合	
2-06	3	1	介護者のうち介護休業を取得したり、仕事の仕方を調整している人の割合	
2-06	3	2	1日あたり介護にかかっている時間	
2-06	3	2	介護をする上で困っていることに「身体的不安が大きい」と回答した人の割合	
2-06	3	3	介護をする上で困っていることに「経済的不安が大きい」と回答した人の割合	
2-06	3	4	介護をする上で困っていることに「精神的負担が大きい」と回答した人の割合	
2-06	3	5	【検討中】(地域福祉計画や子ども計画との連動を想定)	若者総合相談センター、学校、並びに地元の関係機関と連携して対策を検討していきたい
2-06	4	1	【検討中】	企業へのアンケートなどが実施できないか、関連所管と検討していく
2-06	4	1	介護休業制度を利用したかったができなかった人の割合	調査方法や時期について検討中
2-06	4	2	介護者のうち介護休業制度、利用できるサービス等について理解している人の割合	
2-06	4	3	介護について必要な知識・技術がある介護者の割合	
2-06	4	4	【検討中】	

指標番号			指標案	備考
2-06	4	5	ほかの介護者と交流している介護者の割合	
2-06	4	6	【検討中】	
2-06	4	7	介護者や被介護者を手助けしたいと思う人の割合	ここでいう「理解」は受け入れる姿勢をイメージしています。実際にニーズについてどれぐらい知っているかは10-4-6後掲項目とし、その指標は福祉政策案をもとに今後検討します。
2-06	4	7	地域に助けられていると思う人の割合	
2-06	4	7	(新)はちまる応援団(はちまるサポートの活動を支援する住民ボランティア)の人数	R5.9～モデル実施
2-06	4	8	(介護について)相談できると回答した人の割合	
2-06	4	9	【検討中】	
2-06	4	10	【検討中】	
2-06	4	10	はちまるサポートの認知度	
2-06	5	1	市内中小企業の多様な働き方の導入促進に向けた検討	
2-06	5	1	セミナー開催数、参加者数 ※モニタリング指標	セミナーは都との共催事業であり、本市で目標値を定めるには適さない可能性があるため、モニタリング指標(目標値を定めない指標)とすることを検討中。
2-06	5	2	セミナー等開催回数・参加者数	
2-06	5	3	ケアラー手帳の配布数	9期からの新事業として検討中
2-06	5	3	包括の教室開催回数・参加者数	
2-06	5	4	救急通報システム利用者数	
2-06	5	4	認知症高齢者探索機器の貸与件数	
2-06	5	5	紙おむつ給付人数	
2-06	5	6	セミナー開催数、パンフレット配布数	
2-06	5	7	認知症カフェの数	
2-06	5	7	家族会開催回数・参加者数	
2-06	5	7	交流回開催回数・参加者数	
2-06	5	7	ケアラーズカフェ実施数	
2-06	5	7	9期中に具体的な方策を検討	
2-06	5	8	【検討中】	
2-06	5	9	チーム数	9期中に21を目指す
2-06	5	10	民生委員・児童委員による支援件数	
2-06	5	11	見守りシール提供件数	
2-06	5	12	セミナー開催数・参加者数	

指標番号			指標案	備考
2-06	5	13	【検討中】研修開催回数・参加者数？	参加者数については、指標とできるか検討中（動画配信など、実施方法によっては測定が困難な場合もあるため）
2-06	5	14	相談支援件数	
2-06	5	15	令和7年度までに、広報はちおうじでの周知など、身近なケアラーに気づいてさりげなく支えるための普及啓発を開始	
2-06	5	15	(新)孤独・孤立プラットフォーム事業に位置づけられた場の数	<事業説明>
2-06	5	16	令和7年度までに現状調査や本人・保護者向け周知など、学校と連携した取り組みを開始	
2-06	5	16	包括的な地域福祉ネットワーク会議(重層)での情報共有	
2-06	5	17	家族の支援について研修等を行っている事業所の割合	
2-06	5	18	9期中に具体的な取り組みを開始	
2-07	2		認知症になっても地域で幸せに暮らせると思えますか	
2-07	3	1	・認知機能のリスク低下がある人の割合	
2-07	3	1	【検討中】日常生活自立度2A以上の新規認定を受けた時点での平均年齢	データが取得可能か、ほかに測定が容易かつ適切な指標がないかなど、調整・検討中
2-07	3	2	【検討中】認知症診断数に占めるMCI診断数の割合？	データが取得可能か、ほかに測定が容易かつ適切な指標がないかなど、調整・検討中
2-07	3	2	【検討中】	認知症と診断された直後に適切な支援を受けている方の割合などを計測する方法がないか検討しています。
2-07	3	3	認知症安寧調査 総合得点	
2-07	3	3	【検討中】診断後の状態変化率？	データが取得可能か、ほかに測定が容易かつ適切な指標がないかなど、調整・検討中
2-07	4	1	認知症の予防方法について知っている人の割合	
2-07	4	2	認知症について、正しく理解している人の割合	※「認知症は自分を含めて誰もがなりうるもの」といった選択肢の追加など、より高い精度で理解度を測る手法を今後検討していく
2-07	4	3	認知症の相談窓口を知っている人の割合	
2-07	4	4	①関係者の連携により、認知症が疑われる方を早期に医療受診につなげられていると思う包括職員の割合 ②医師が診断と合わせて適切な支援の案内を行っていると感じる包括職員の割合	
2-07	4	5	本人発信の場があると感じる認知症高齢者の割合	

指標番号			指標案	備考
2-07	4	6	①認知症の方が社会参加できる場や資源があると感じる人の割合 ②地域の一員として社会参加している認知症高齢者の割合・近所の人に困った時に頼れる認知症高齢者の割合(新規 認知症安寧調査) ③家の外になじみの場所がある、安全に外出し、帰宅できると答えた認知症高齢者の割合 ④現在の暮らしが地域の人(ボランティア・民間企業・友人等)に支えられていると感じる人の割合(在宅調査)	
2-07	4	7	認知症にかかる多様な職種や機関と連携協働が図られていると感じる事業所の割合	
2-07	5	1	認知症サポーター サポーター数 イベント実施数	
2-07	5	2	ステップアップ講座の実施回数・参加人数	
2-07	5	3	家族会 設置数	
2-07	5	3	認知症カフェの数	
2-07	5	3	わたぼうし 活動実績	
2-07	5	4	ケアパス等の配布実績・改訂の検討	
2-07	5	5	9期計画中に実施を検討	
2-07	5	6	9期計画中に実施を検討	
2-07	5	7	ピアサポート活動(おれんじドア)活動実績(回数)	
2-07	5	7	本人ミーティング活動実績(回数)	
2-07	5	7	認知症カフェの数	
2-07	5	8	社会参加体制整備事業 活動実績	具体的な実績の定義は検討中
2-07	5	9	チームオレンジ 団体数	
2-07	5	10	認知症高齢者ネットワーク会議、地域ケア会議の開催回数	
2-07	5	11	利用者数	
2-07	5	12	事業所数、アドミニストレーター数	
2-07	5	13	研修実施回数	
2-08	2		【検討中】	この指標については、国の基本指針にもある「地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組」の検討を踏まえて設定する必要あり。
2-08	3	1	関係者の連携により高齢者に適切な支援ができていると思う包括職員の割合	なお、質問に当たっては、うまく連携できない理由を追加できくなど、具体的な改善に生かせそうな手法を検討していきます。
2-08	3	1	関係者の連携により高齢者に適切な支援ができていると思うケアマネの割合	
2-08	3	1	関係者の連携により高齢者に適切な支援ができていると思うはちまるサポートのCSWの割合	

指標番号			指標案	備考
2-08	3	2	【検討中】(5-6において、地域ケア推進会議の提言を政策化するための具体的な流れを設定し、それに合わせた指標を9期中に設定)	
2-08	3	2	【検討中】(5-6において、地域ケア会議で抽出された課題に政策として対応するための具体的な流れを設定し、それに合わせた指標を9期中に設定)	
2-08	3	2	提言した課題が政策につながっていると感じる包括職員の割合	
2-08	3	2	提言した課題が政策につながっていると感じるはちまるサポートのCSWの割合	
2-08	3	3	【指標なし】(5-10や5-11における検討や包括運営部会での検討を経て9期中に設定)	
2-08	4	1	(専門機関向け)はちまるサポートの事業内容と役割の認知度	包括的な地域福祉ネットワーク会議は、主に多機関連携による施策の推進について、その方向性や各所管で行う内容などについて情報共有する会議体(重層的支援体制整備事業の取り組みのひとつ)
2-08	4	2	【検討中】(地域福祉計画と連動)	
2-08	4	2	重層的支援会議を活用した多機関連携による個別支援(会議の開催数もしくは「個別支援プラン」の作成件数)	複合的な課題に対し、関連機関で対応協議する重層的支援会議を運営する。(主に個別ケースを多機関で支援するための協議の場合)
2-08	4	3	①地域ケア会議における課題抽出数 ②(5-6において、地域ケア会議で抽出された課題に政策として対応するための具体的な流れを設定し、それに合わせた指標を9期中に設定)	
2-08	4	4	①地域ケア推進会議での市への政策の提言数 ②(5-6において、地域ケア推進会議の提言を政策化するための具体的な流れを設定し、それに合わせた指標を9期中に設定)	
2-08	4	5	(仮)包括ケアアクションプランの作成	
2-08	4	6	【指標なし】(5-10や5-11における検討や包括運営部会での検討を経て9期中に設定)	
2-08	4	7	「市から任された役割がわかっている」「必要な人員の質と量が確保できている」と回答した包括職員の割合	
2-08	5	1	研修開催回数・参加者数	
2-08	5	2	地域ケア会議ガイドラインに反映	
2-08	5	3	個別事例検討件数	
2-08	5	4	多機関合同研修の実施回数	お互いの役割を知り合うための合同研修の充実(生活困窮自立支援、精神保健、高齢、ひきこもり支援など)
2-08	5	5	重層的支援体制整備事業の機能強化(多機関支援マニュアルの作成・周知、支援会議の開催回数)	どの窓口にも複合的な相談が来てもはちまるサポートをハブに同じ対応がとれる共通スキームの構築を目指す
2-08	5	5	包括的な地域福祉ネットワーク会議の開催数	

指標番号			指標案	備考
2-08	5	6	多職種による連携や地域課題の抽出、市の政策形成や地域資源づくりとの連携を見据えた地域ケア会議のマニュアル作成及び地域ケア推進会議の新体制の構築	
2-08	5	7	地域ケア推進会議の開催回数	
2-08	5	8	以下について令和6年度中に所管横断で検討し、方策をまとめる。 ・包括の機能強化 ・包括の負担軽減 ・予防プラン作成支援 ・個別ケース対応と政策検討をつなげる仕組みづくり ・基幹型包括の在り方検討	9期の最重要課題の一つであるため、ロジックモデルにおける記載も「検討」を越えて「体制整備」まで踏み込んだ。
2-08	5	9	成果連動型報酬の9期計画中の導入	
2-08	5	10	業務量が多いと感じる包括職員の割合	
2-08	5	11	委託数	
2-08	5	12	【検討中】	
2-09	2		何かあったときに、家族・知人・友人以外で相談できる人がいる高齢者の割合	
2-09	3	1	身近な相談窓口相談したいと思う人の割合	
2-09	3	1	包括・はちまるなどでの相談件数	
2-09	3	1	包括認知度	
2-09	3	1	はちまるサポートの認知度	
2-09	3	1	CSWの認知度	
2-09	3	1	悩みや不安、困りごとの相談先で「どこに相談すればよいかわからない」と回答する人の割合	
2-09	3	2	電話、サテライト窓口、オンライン等での相談件数	
2-09	3	2	相談窓口に行かない理由として「遠いから」を選んだ人の割合	
2-09	3	3	住民や民間企業など、支援機関を除く地域住民等からの個別支援の相談件数	
2-09	4	1	普段いく場所や会う人から、相談窓口や制度について情報を得ることがあると答えた高齢者の割合	
2-09	4	2	包括認知度	
2-09	4	2	健康状態や生活上の困りごとについて地域の人がかかっていると感じる高齢者の割合	
2-09	4	2	はちまる応援団の人数	
2-09	5	1	【検討中】情報発信実績？	具体的な測定方法は検討中
2-09	5	2	事業実績	
2-09	5	2	後期高齢者実態把握調査の結果に基づいた高齢者あんしん相談センターによるアウトリーチ総件数	
2-09	5	3	【指標なし】(9期中に設定)	

指標番号			指標案	備考
2-09	5	4	【検討中】	
2-09	5	5	【指標なし】(9期中に設定)	
2-09	5	6	シルバーふらっと相談室における総相談件数	
2-09	5	6	シルバーふらっと設置数	
2-09	5	7	オンライン・メール等での相談受付実績	
2-09	5	8	CSWによるアウトリーチ件数	
2-09	5	8	包括職員によるアウトリーチ件数	
2-09	5	9	情報発信実績(広報特集号での記事掲載など検討)	
2-09	5	9	サロン向け情報発信(見守り加算との連動を検討)	
2-10	2		保険外サービス、ボランティアを利用している人の割合	
2-10	2		民間サービスを利用している人の割合	
2-10	2		地域の人に助けってもらう人の割合	
2-10	3	1	介護保険外サービスを活用する際に「本人・家族のニーズに合った保険外サービスがわからない」「保険外サービスの一覧表がない」と課題に感じるケアマネの割合	情報の探しやすさについては、住民と支援者で枝分かれさせるか検討しています(課題や対策の性質がどの程度異なるかによる)
2-10	3	1	介護保険外サービスをよく把握しているケアマネの割合	
2-10	3	1	地域資源を探しやすいと感じる包括職員の割合	
2-10	3	1	地域資源を探しやすいと感じるはちまるCSWの割合	
2-10	3	1	「介護保険サービス以外」の支援・サービスが身近にない、知らない人の割合	
2-10	3	2	【検討中】 (民間サービスの利用率)÷(後期高齢者人口)÷(「介護保険サービス以外」の支援・サービスが身近にない、知らないと答えなかった人の割合)	※ サービスの供給量を単独で測定するのは困難なため、「サービス供給(3-2)×ニーズ(後期高齢者人口に比例と仮定)×情報アクセス(3-1)」が「利用状況(2)」に比例すると仮定して設定 もう少しわかりやすい指標がないか並行して検討しています。
2-10	3	3	地域のために活動している市民の割合	
2-10	3	3	NPOや地域活動団体の数	
2-10	3	3	地域活動への参加したことがあるという市民割合	
2-10	3	4	自宅からの移動に困難を感じている人の割合	
2-10	4	1	地域包括ケア情報サイト 掲載情報数・更新頻度	
2-10	4	1	【検討中】地域資源の把握状況	ここでは、地域包括ケア情報サイト以外の情報一元化の成果を指標とする想定
2-10	4	1	要支援者でも活用できる多様な通いの場(社会参加の場)や生活支援の掲載件数	

指標番号			指標案	備考
2-10	4	2	【指標なし】(3-1と共通)	論理構造をわかりやすくするためロジックモデル上のアウトカムは設定したが、測定可能な指標が想定できないため指標は上位アウトカムと共通とする。
2-10	4	3	企業・店舗等が地域の高齢者を見守っていると感じる包括職員の割合	
2-10	4	3	今後追加指標を検討(企業・店舗等が見守ってくれていると感じる要介護者の割合)	
2-10	4	3	企業・店舗等からの相談実績	
2-10	4	4	高齢者が抱える困りごとの解決に向けて、企業と連携できていると感じるSCの割合	
2-10	4	4	100年サポート企業数	なお、数を増やすことよりも企業間や企業と地域の連携による活動量を増やすことが重要なので、登録数の大幅増加を目標にはしない想定。
2-10	4	5	地域への社会貢献活動を行っている介護事業所の割合	
2-10	4	5	「保険外サービスを提供する事業所が少ないと感じる」ケアマネの割合	
2-10	4	6	高齢者の健康状態や生活上の困りごとについて、地域の人が分かっていると答えた高齢者の割合	
2-10	4	6	高齢者の健康状態や生活上の困りごとについて、把握している団体の割合	
2-10	4	6	【検討中】	
2-10	4	7	【検討中】	
2-10	4	8	団体が活動しやすい環境になっていると回答したSCの割合	
2-10	4	9	移動困難理由に「送迎してくれる人がいない」と回答した人の割合	
2-10	4	10	公共交通機関が利用しやすいと感じている市民の割合	
2-10	5	1	【検討中】	すでに各分野が集積している情報を一元化し、アップデートしていける仕組みについて検討が必要ではないかと認識しています。
2-10	5	1	包括的な地域福祉ネットワーク会議の開催数	
2-10	5	2	地域包括サイト掲載情報数	
2-10	5	3	【指標なし】(5-2の検討を踏まえて設定)	
2-10	5	4	SCの活動実績	
2-10	5	4	SC向け研修及び定例会の実施回数	
2-10	5	4	SC圏域ミーティングの開催回数	
2-10	5	4	地域資源・ニーズの調査回数	
2-10	5	5	てくポ(ウェルネスプラットフォーム)を通じた市場サービス利用量	
2-10	5	6	訪問B団体数	

指標番号			指標案	備考
2-10	5	7	100年サポートブック配布数	
2-10	5	7	就労的支援コーディネーター コーディネート実績	
2-10	5	8	協定に基づく通報・連絡件数	
2-10	5	8	締結企業の従業員向け発信実績	
2-10	5	9	ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス(SBCB)支援事業の参加者数	
2-10	5	10	08-5-6と連携して、地域ケア会議マニュアルに反映	
2-10	5	11	【検討中】SC・就労的活動支援コーディネーターと民間企業との協同実績？	実績の具体的な測定方法について検討が必要
2-10	5	11	100年サポート企業協議体分会の開催回数	
2-10	5	12	事業所手引き	
2-10	5	12	08-5-13とあわせて9期中に事業者ヒアリングや現状分析を実施	
2-10	5	13	協議体開催回数・地域ケア会議開催回数	
2-10	5	14	研修開催数・参加人数	
2-10	5	14	てくポによるマッチング件数	
2-10	5	14	普及啓発(リーフレット配布)	
2-10	5	14	地域デビューパーティー802参加者数	
2-10	5	15	訪問B延べ活動回数	団体の立ち上げが目的ではないため、団体数よりも活動量を指標にする
2-10	5	16	運転ボランティア人数・圏域ごとの移動支援提供団体数	
2-10	5	17	移動支援部会(庁内)の開催数 検討結果の事業化実績	
2-11	2		各種社会参加の頻度を合わせて週1回以上になる人の割合	
2-11	2		この1か月であった知人・友人の数	
2-11	2		自分に合った居場所、つながり、役割があると感じている人の割合	
2-11	3	1	月1回以上、社会参加している人+社会参加に関心を持っている人の割合	
2-11	3	2	地域の社会参加の場を知っている人の割合	
2-11	3	2	社会参加の機会が十分にあり、相談があったときに適切な場を紹介できると感じる包括職員の割合	
2-11	4	2	サロン、シニアクラブ、町会・自治会等の合計数	
2-11	4	3	訪問B、その他地域団体数、てくポボランティア受入機関数の合計数	
2-11	4	3	町会・自治会の団体数、加入者数	
2-11	4	3	ふれあい・いきいきサロンの箇所数、参加者数	
2-11	4	3	シニアクラブの団体数、会員数	

指標番号			指標案	備考
2-11	4	3	訪問Bの登録団体数	
2-11	4	3	八王子センター元気のコーディネート件数、コーディネーター登録者数、ボランティア登録者数	
2-11	4	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターの団体登録数、個人登録者数 ・ボランティアセンターでのマッチング件数 ・活動の場の数 ・ボランティアセンターの認知度 ・ボランティアセンターの利用満足度 	
2-11	4	3	就労的活動支援コーディネーター 登録サービス数	
2-11	4	3	てくポ(ボランティアポイント)受入機関数・参加者数	
2-11	4	4	月1回以上、収入のある仕事をしている人の割合	
2-11	5	1	9期中に検討し、具体的な事業内容を決定	
2-11	5	2	普及啓発に向けた取組状況 (はちおうじ人生100年サポートブック等)	
2-11	5	3	てくポ(イベント参加ポイント)参加者数	
2-11	5	4	民生委員・児童委員が関わっている高齢者サロンの箇所数	
2-11	5	4	民生委員・児童委員の数	
2-11	5	4	民生委員・児童委員が把握している一人ぐらい世帯・高齢者のみ世帯の数	
2-11	5	5	【検討中】	
2-11	5	5	ふれあい・いきいきサロンへの補助額	
2-11	5	5	シニアクラブへの補助額	
2-11	5	6	【検討中】訪問B団体への補助額及び活性化に向けた取り組み状況？	訪問Bについては、活動量の推移分析や活性化へのボトルネック特定などを行ったうえで、より積極的な支援を検討していく必要がある。
2-11	5	6	【検討中】	
2-11	5	6	ボランティアセンターへの補助額及び活性化に向けた取り組み状況	
2-11	5	7	てくポ(ボランティアポイント)ボランティア受入機関増に向けた取り組み状況	
2-11	5	8	シルバー人材センターの年間受託件数、就業延人数 活性化や認知度向上に向けた取り組み状況	
2-11	5	9	ジョブ・ボラマッチング導入に向けた取組状況	
2-11	5	10	就職マッチング支援事業の参加者数	
2-12	2		新規認定時の平均年齢	
2-12	2		ニーズ調査のフレイル率	
2-12	3	1	ロコモティブシンドローム、フレイルを知っている人の割合？(ニーズ調査)	
2-12	3	1	あなたは自身の健康維持に何が必要か理解し、日々の生活で具体的に意識していますか？(新ニーズ？)	

指標番号			指標案	備考
2-12	3	2	【指標なし】(通いの場・教室等の効果を検証しながら、今後指標を検討)	
2-12	3	3	40分以上体を動かしている人の割合	
2-12	3	3	身体活動習慣の改善に取り組んでいる人の割合	
2-12	3	4	やせ(BMI18.5未満)の割合	出典については、客観性のある健診データを使うか、「健診行かない層」も含むアンケートを使うか検討中。他計画との整合や他市との比較可能性も意識して決定する。
2-12	4	1	健診受診率	こちらは65歳以上の人全てを分母とするイメージです
2-12	4	1	後期高齢者口腔健診、後期高齢者健康診断 受診率	こちらは75歳以上の人を分母とするイメージです
2-12	4	1	後期高齢者悉皆調査 回答率	
2-12	4	2	身体活動を楽しめている人の割合	
2-12	4	3	食品多様性スコア7点以上の割合(ほぼ毎日を1点)	
2-12	4	4	食事を楽しむことができている人の割合	
2-12	4	5	①口腔機能低下者割合 ②残存歯20本以上の人の割合	出典については、客観性のある健診データを使うか、「健診行かない層」も含むアンケートを使うか検討中。他計画との整合や他市との比較可能性も意識して決定する。
2-12	4	5	かかりつけの歯科医を持っている人の割合	具体的な測定方法は検討中
2-12	5	1	包括や保健福祉センターで実施している測定会 参加者数	
2-12	5	1	一体的実施ポピュレーションアプローチ数	
2-12	5	2	【検討中】	受診率向上に向けた取り組みのアウトプットを指標としたい。 例：チラシ配布数、イベント参加者数など？
2-12	5	3	八王子健康アンケート発送数及び回答率向上に向けた検討状況	
2-12	5	4	地域リハ・食ナビの通いの場へのアウトリーチ回数、参加者数	
2-12	5	5	講座数、参加者数	
2-12	5	5	健康づくりサポーター登録数	
2-12	5	6	【指標なし】(通いの場・教室等の効果を検証しながら、9期中に事業化し、指標を設定)	
2-12	5	7	参加者数(延べ人数及び実人数)	
2-12	5	8	てくポ(歩数目標達成率)	
2-12	5	9	てくポ(食食品目数達成率)	
2-12	5	10	普及啓発事業実績	
2-12	5	11	相談件数	
2-12	5	12	利用者数	

指標番号			指標案	備考
2-12	5	13	・地域食堂の延べ利用者数 ・CSWが地域食堂につないだ件数(生活困窮・孤独・ひきこもりなど) ※NPOとの連携による孤独・孤立対策プラットフォーム構築事業の実施	
2-12	5	14	①歯・口腔に関する講座回数・参加人数 ②受診勧奨等の啓発事業実施実績	
2-12	5	15	健診受診者数	
2-12	5	16	検診受診者数	
2-13	2		要支援・事業対象者から要介護認定に変化した人の割合	
2-13	2		要支援・事業対象者の重度化率	
2-13	2		要支援・事業対象者の主観的幸福感の変化	
2-13	3	1	新規要支援・事業対象者における短期集中予防サービスの利用率	短期集中予防サービスだけがリエイブルメントではないが、アウトカムの達成度を測るバロメーターとしてわかりやすいので8期から継続して採用。 なお、目標値の設定は現状を踏まえて再考。
2-13	3	2	短期集中予防サービス終了後1年間の認定の変化	
2-13	3	2	短期集中予防サービス終了後サービス利用数又は利用率の変化(介護費削減効果)	
2-13	4	1	要介護などの認定を受けた場合、再び自立した生活にもどるためのサービスの利用を希望する人の割合	
2-13	4	2	市がリエイブルメントを目指した介護予防サービスの提供を進めていることを知っているケアマネの割合	
2-13	4	2	アセスメントにおいて、利用者の再自立(リエイブルメント)や状態改善の可能性を意識しているケアマネ、包括の割合	
2-13	4	2	リエイブルメントの可能性がある方には根気強くその説得を行っていると感じる包括職員の割合	
2-13	4	3	5-5で作成したフローを常に意識した対応を行っている包括職員の割合	作成するフローは「ルール」ではなくあくまでも「標準的なイメージ」という位置づけ
2-13	4	4	新規要支援・事業対象者でサービス利用を希望する方のうち、地域リハ利用率	
2-13	4	4	リエイブルメントの可能性について判断する力がついてきたと感じる包括職員の割合	
2-13	4	5	悉皆調査の結果を受けて行う包括のアウトリーチから短期集中予防サービスに繋がった人数	
2-13	4	6	短期集中予防サービスの利用待機者の平均期間	
2-13	4	6	キャパシティ	
2-13	4	6	圏域カバー率	
2-13	4	7	短期集中予防サービス卒業時のからくらしシートによる心身状況の評価	

指標番号			指標案	備考
2-13	4	8	・短期集中予防サービス卒業後3か月後のからくらシートによる心身状況の評価 ・可能であれば、サービス卒業後、半年または1年後の卒業生アンケート	
2-13	5	1	市民向け情報発信においてリエイブルメントを大切に する姿勢を一貫させるための、各種媒体の見直しや統 合に向けた検討を実施。	
2-13	5	1	・パンフレットの配布数 ・出前講座などの講習回数 ・広報特集号の発行(5-5と連動して令和7年度前半 発行を想定)	
2-13	5	2	医療などの専門職向けの周知活動の検討 (2-02-5-9や2-07-5-7と連動)	
2-13	5	3	【検討中】(08-5-8にて検討)	
2-13	5	4	研修回数、参加者数	
2-13	5	5	令和6年度中に作成し、令和7年度から運用開始	
2-13	5	6	利用者数	
2-13	5	7	①アウトリーチ数 ②リスク分類の妥当性の検証	
2-13	5	8	事業所数	
2-13	5	9	研修回数	
2-13	5	10	・SCの委託契約内容の見直し ・研修回数 ・アウトカムに基づく加算導入を検討	
2-13	5	11	SCが短期集中予防サービスに介入出来た割合	
2-13	5	12	通所B実施圏域数	
2-14	2		短期的な平均要介護度の変化(軽度【要介護1・2】)	
2-14	2		短期的な平均要介護度の変化(中重度【要介護3～ 5】)	
2-14	2		長期的な平均要介護度の変化(軽度【要介護1・2】)	
2-14	2		長期的な平均要介護度の変化(中重度【要介護3～ 5】)	
2-14	3	1	介護サービス事業所において、本人の状態に応じて、 自立支援に向けた適切なサービスが提供されている と感じるケアマネの割合	
2-14	3	2	「自分でできることは自分でやる。可能な限り能力の 維持向上に努める」という原則を説明し、制度趣旨に 沿ったケアプランを作成するケアマネの割合	
2-14	4	1	自分たちの提供するサービスが、法の趣旨にのっとり 状態改善や重度化防止を意識したものであると感じ る従事者の割合	
2-14	4	2	生活機能向上連携加算の取得率 八王子市独自加算Ⅰの取得率	
2-14	4	2	状態改善や重度化防止に取り組むメリットがあると感 じる事業所の割合	
2-14	4	2	状態改善や重度化防止に取り組むノウハウがあると感 じる事業所の割合	

指標番号			指標案	備考
2-14	4	3	高齢者の自立支援に向けてケアマネジメントを行うときに、民間企業等が提供する保険外サービスを取り入れることを意識しているケアマネジャーの割合	
2-14	4	4	【指標なし】(5-5の検討を経て10期計画で設定)	
2-14	5	1	重度化防止に係る事業所研修の開催回数	
2-14	5	2	【検討中】	
2-14	5	3	研修会開催回数	
2-14	5	4	川崎市の事例や事業者調査・ヒアリングの結果などを参考に9期中に検討を進め、10期当初からの導入を目指す	
2-14	5	5	先進市の事例や事業者調査・ヒアリングの結果などを参考に9期中に検討を進め、10期当初からの導入を目指す	
2-14	5	5	東京都がR5年度中に開始する状態維持・改善に向けた事業所インセンティブについて、成果を上げた事業所の公表などをR6年度に検討。	
2-14	5	6	ケアプラン点検の件数	
2-14	5	6	重度化防止の視点を意識した点検の実施	
2-14	5	7	自立支援・重度化防止や給付適正化に関するケアマネジャー研修の回数、受講者数	
2-15	2		軽度認定率(他自治体比較した場合の偏り)	本市の認定については、軽度認定率が他自治体と比べて極端に高いという特徴があるため、左記の指標を設定しています。
2-15	3	1	基本チェックリストの使用割合	
2-15	3	2	実利用率(総合)	
2-15	3	3	認定審査期間	
2-15	4	1	介護保険サービス実利用率(新規)	
2-15	4	2	介護保険サービス実利用率(更新)	
2-15	4	3	一次判定結果	1次判定結果について他自治体や全国との比較が可能か確認が必要。
2-15	4	4	重度・軽度変更率(一次判定から二次判定への変更)・非該当率	本市の認定については、一次判定から二次判定で重度になる割合が他自治体と比べて極端に高く、非該当率が極端に低いという特徴があるため、左記の指標を設定しています。
2-15	4	5	認定審査件数の伸び率が後期高齢者人口の伸び率以下	
2-15	4	6	1件当たりの平均処理時間	
2-15	4	7	月あたりの審査件数	
2-15	5	1	【検討中】	
2-15	5	2	9期中に具体的な対応を実施	

指標番号			指標案	備考
2-15	5	3	開催回数・参加者数	
2-15	5	4	分析データ公開 必要に応じて高齢者福祉専門分科会での議論などを 実施	
2-15	5	5	フィードバック実施	
2-15	5	6	検討会の実施	
2-15	5	7	オンライン開催回数・参加者数	
2-15	5	8	検討会の実施	
2-16	2		介護人材の不足を感じている事業所の割合	
2-16	2		介護職員数×生産性向上率	
2-16	3	1	介護職員数	
2-16	3	2	生産性が向上したと感じている事業所の割合	
2-16	3	2	生産性が向上したと感じているケアマネの割合	
2-16	4	1	家族や親しい友人に介護の仕事に就くことを勧めたい と思う人の割合	
2-16	4	1	介護の仕事に就いている人を尊敬できる人の割合	
2-16	4	2	介護人材(新卒・中途(経験者・未経験者))が採用でき ている割合	
2-16	4	3	ここ数年で給与が上がっていると感じている介護職員 の割合	
2-16	4	3	仕事に見合った給料がもらえていると感じる介護職員 の割合	
2-16	4	4	離職率	
2-16	4	5	スキルアップの機会が十分にあると感じる介護職員の 割合	
2-16	4	5	将来のキャリアデザインを考えて日々の業務につなげ ている介護職員の割合	
2-16	4	5	スキルアップやキャリアデザインに向けた具体的な支 援を行っている事業所の割合	
2-16	4	6	経営状況が安定していると感じている事業所の割合 ※法改正による経営状況の見える化の動きを見なが ら検討	
2-16	4	6	介護保険外で収益を得る取り組みを行っている事業 所の割合	
2-16	4	7	有資格者(初任者研修、実務者研修、介護福祉士)が周 辺業務をしていない事業所の割合	
2-16	4	8	ここ数年で業務改善の努力が定着している事業所の 割合	
2-16	4	8	日々業務の効率アップに向けた検討や工夫をしている 職員の割合	
2-16	4	9	ここ数年で文書負担が軽減されていると感じている 介護職員の割合	
2-16	4	9	ケアマネジメントの困難さについて「書類が多い」と答 えたケアマネの割合	
2-16	4	10	介護ロボットやICT機器を導入している事業所の割合	

指標番号			指標案	備考
2-16	5	1	介護職の魅力ややりがい、表彰などについての情報発信の取組状況	
2-16	5	2	生活支援ヘルパーの受講者数、修了者数、就職者数	
2-16	5	2	入門的研修の受講者数、修了者数、就職者数	
2-16	5	2	介護助手おしごと相談会の来場者数、就職者数	
2-16	5	2	福祉のしごと就職フェアの来場者数、就職者数	
2-16	5	3	資格取得支援者数(新規就労者枠)	
2-16	5	4	外国人介護従事者等に対する日本語学習支援事業の受講者数、修了者数	
2-16	5	5	【検討中】	
2-16	5	6	(特定)処遇改善加算の要件周知・取得支援の取組状況	
2-16	5	6	(特定)処遇改善加算の取得率	
2-16	5	7	生活支援ヘルパー応援加算の取得率	
2-16	5	8	【指標なし】(ケアマネ・介護人材ヒアリング等を経て9期中に設定)	
2-16	5	9	介護事業所研修の受講者数(介護事業所研修のキャリアデザイン/従業員ケア/エンゲージメント)	
2-16	5	10	認知症介護基礎研修の受講者数	
2-16	5	11	資格取得支援者数(ステップアップ枠)	
2-16	5	12	介護事業所研修の受講者数(経営改善・ネットワーク)	
2-16	5	13	てくポ(ボランティアポイント)参加者数 ※介護事業所でボランティアした方	
2-16	5	14	介護事業所研修の受講者数(BPRと国・都支援の活用)	
2-16	5	15	介護事業所研修の受講者数(エンゲージメント)	
2-16	5	16	【指標なし】(ケアマネ・介護人材ヒアリング等を経て9期中に設定)	
2-16	5	17	【指標なし】(国の動向などを見ながら事業化の可否を検討していく)	
2-16	5	18	介護事業所研修の受講者数(ICT活用と国・都支援活用)	